

事業所名 グループホームやすらぎ 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念を作り上げている。理念の意味するところは何か、実現のためにはどうするのか話し合いを行い、年度初めに目標や運営の重点として事業計画にあげている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	皆で話し合っって作り上げたことで、職員にとって理解や実践につなげることが容易になっていると思われる。月一回のやすらぎ会議や勉強会の中でも意識づけが行われている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会で、年度初めに報告を行なっている。建物内部に表示して、来訪時には見てもらえるようにしている。	○ 広報や、各種案内に載せて紹介し、多くの方に理解してもらえよう取り組みたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	庭先での活動時、散歩・掃除・通院・買い物の際に挨拶したり、会話したりしている。	○ これからも働きかけて行きたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元公民館の花見、お祭りなどのお誘いがある。町内のイベントに出向いて参加している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町内の地域密着型サービス事業者で懇談会を立ち上げ、認知症相談所や行方不明SOSネットワークの構築など地域の役に立ちたいと活動中である。救急救命講習会を実施し地域住民にも参加を呼びかけた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員の入れ替わりもあるので、サービスのあり方を考えたり、質の確保・継続に役立っていると思われる。また、項目によっては明らかに取り組みが足りないというものに気づききっかけにもなっている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の様子や、サービスについてその時々様子を報告し、話し合いを行なっている。会議で取り上げられたものについて、サービスや運営に役立てるようにしている。救命講習会については推進会議から出た意見により実施された。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型サービス懇談会や町のケア会議に出席する機会がある。また、何かあれば電話や、直接出向いて相談するなどし、連携できている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	町で開催される勉強会や、県高齢者権利擁護センター事業の青年後見人養成研修を受講している。個々の必要性についても理解し、必要があれば活用できるように準備している。	○	今回の自己評価では、勉強会や研修を受講していても、また専門学校等で勉強していても、改めて理解できているかと聞かれると自信が持てないという職員が大半であった。勉強会を行った。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	繰り返し勉強会を行っている。また、外部の研修会に参加して学ぶ機会もある。日々のケアで該当する行為を行っていないか注意を払っている。	○	意識しないと、気づかずに行なったり大丈夫と思いついでいる場合もあると考えられる。権利擁護・身体拘束とあわせ、勉強会を行った。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	じっくり時間をかけて説明し、理解・納得いただけるようにしている。その場で納得いただいても後に疑問な点や納得いかないこともある。そのような場合も改めて説明させてもらい、理解してもらっている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の受け入れを行い、直接言えなくても表せる機会を作っている。意見箱を設けいつでもだれでも利用できる状態にある。相談に応じる担当者をもうけており、契約時に紹介している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ケース記録と日常生活の様子・ケアプランの実施状況をまとめたものの写しを差し上げて報告している。お小遣い出納帳は面会時に確認していただいている。広報で暮らしぶりを伝えている。面会時には、生活の様子・体調について報告し、意見や要望があれば何うようにしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時には、施設の相談窓口の存在や担当者の氏名について、施設外の相談窓口について電話番号も含めて紹介している。意見箱を設けている。運営推進会議に交代で参加していただき、意見を伺い運営に反映させている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のやすらぎ会議は職員の意見を聞く機会となっている。会議でなくても、日頃のコミュニケーションから良い意見や提案が気づきとしてあがることもある。「気づきノート」に書き込んで提案することも出来る。法人の主任等会議において職員の意見を報告したり、提案したりし、反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	重度化に伴って利用者の状態に合わせた職員配置となるよう、話し合いながら調整している。行事のための調整を行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動、他部署の職員の動き(離職や、産休など)などで入れ代わりはある。その場合でも、普段から交流のある部署からの異動で顔見知りの職員が配属されダメージが少ないよう配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で段階に応じた研修が計画され参加している。外部で開催される研修にはなるべく多くの職員が参加するようにし、やすらぎ会議で研修内容や感想の報告をするようにしている。職員の方から研修受講の希望があれば、費用の補助(全額・または一部)、勤務調整(職免も場合によって)等行っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に入会し、同業者との交流の機会がある。町の地域密着型サービス事業者懇談会で町内の同業者との交流もある。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日頃より、話しやすい雰囲気を作り、申し送りや仕事の様子からストレスや悩みを把握し、軽減できるよう努めている。他事業所の職員と交流する機会を持ち、ストレスや悩みを共有して軽減できる機会を作っている。職員の親睦を目的とした旅行を企画しようと考えている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課を取り入れ、職員の努力や成果について把握するようにしている。また年度末の手当に反映させ、働く意欲につなげている。職員の資格取得に向けた支援を行っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時、利用開始の事前面談で心配なこと困っていることは何か、どのような生活を望んでいるかじっくり聴くようにしている。自宅からの入居の場合必ず自宅を訪問し、生活状態を把握するようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	最初の相談はもちろん、入居待機中も状況をうかがいながら必要な相談に乗るなどして信頼関係を築くことが出来るように努力している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族にとって、どのような支援が必要か、当面できることはないか、他のサービス機関への紹介が必要か、心配事の解決や軽減につながるよう対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	特に初めて入居系のサービスを利用される場合は、職員が自宅を訪問しての関係作りから、何度か施設を訪問し慣れていただいてからサービスを利用してもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来ること出来ないことの見極めをし、今出来ることが継続して出来るよう支援している。職員が教えてもらう場面も多くある。出来るからやって当たり前というのではなく、共に協力し、感謝の気持ちは言葉で表し伝わるように接している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会や、行事で来所された時は利用者の様子を詳しく伝え、家族の思いを伺い、いっしょに支援できることはないか考えながら協力いただいている(外出・外泊の支援、散歩や運動等)。入居前の様子(生い立ち、仕事、暮らし、病気等)、生活や考え・思いについて教えていただき、支援に役立っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人、家族双方からよく話を聞き、関係の理解に努めている。面会や、行事参加も多く、良い関係を築くことが出来ていると思われる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族が、自宅やその近辺、実家に連れて行ってくださるので継続をお願いしている。散髪は馴染みの美容室に行く、畑の苗や種を買う時はいつも利用していた店に行くなどしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	関わり合いが良い雰囲気をつくっていることがあればその逆もある。その日その時間により変化もあるので見守り、援助を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了時には、この後も力になれること、協力したり相談に乗ることを話している。特に入院して契約が終了する場合、退院後のことについて相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式アセスメントにより、きめ細かく把握するように努めている。利用初期のアセスメントにより、思いや意向をあらかじめ把握できているので、状態に変化があってもそれに沿ったケアが提供できていると考えている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式アセスメントにより把握できている。新しい情報があれば付け足し、より詳しく把握するようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	定期的カンファレンスを行い、変化に気づき、把握できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	直接本人や家族は話し合いに参加していないが、職員が伺った情報を持ち寄って介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは行われている。変化が生じたときには話し合っって対応するようにしているが、新たな計画の作成までは行われていない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録のほかに、月ごとにまとめとして結果や気づき、ケアプランの実施状況を記録して、情報が共有できるようにしている。特別に観察が必要な事項があれば、必要な期間チェック表にてチェックを行い対応している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の支援を行い、本人や家族の負担を軽減させている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	広報を関係機関に配り、連携を働きかけている。救命講習、避難訓練では消防署に協力してもらっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は、他のサービスを希望したり必要とする利用者さんはおらず、利用されていない。	○	意向や必要性は検討していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員がメンバーとして参加していただいている。情報交換する中で、必要であれば協働出来る体制にある。町の地域密着型事業者懇談会の中で認知症相談についてや、行方不明ネットワーク構築等について一緒に進めようと活動中。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。通院は職員が付き添って対応し、結果については家族に報告している。かかりつけ医は、グループホームの理解があり良好な関係である。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>医療機関が隣接していることもあり、最後までホームで看てほしいと希望される方は現在はいないので、ホームでの看取りを前提とした協力医療機関との支援体制作りには、いまだ至っていない。今後の課題である。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳を守るとはどういうことなのか、勉強会で取り上げ意識して対応するようにしている。気が付いた時は、その場でまたはミーティングで話題にし、意識を高めるようにしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	改めて聞き出すのではなく、日常の会話の中で表せるようにさりげない働きかけを行っている。どの程度まで表せるか、決められるかを一人ひとり把握して支援(例えば、2つの中からひとつを選んでもらうなど)している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のペースをもっている方が多く、職員は本人のペースに合わせて支援を行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	好きな色やファッションの傾向はだいたい把握している。清潔なもの、季節に合ったものに整うように支援している。理容・美容は主に家族が本人の希望に沿って連れて行ってくださっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の仕度が生きがいという方もいれば、これだけは出来るという方もおり、メニュー作りから、調理・盛り付け、片付けを共同で行っている。得意なことを把握して、活躍の場面を作っている。「ありがとう、助かりました」「おいしいね」など必ず声を掛けるようにしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	健康上制限されている方は現在いないので、自由に楽しんでもらっている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の状況については個別に把握している。気持ちよく過してもらえよう、支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は決めているが、基本的には自由に入浴できる。重度化に伴い、他利用者の見守りが必要な時間帯に希望される場合は説明し納得いただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	好きな時間に休んでもらっている。夜間不眠であったり、疲れやすいなど日中に休息が必要な場合もある。カーテンで明るさを調節したり、起こしてあげるから安心して休んでくださいなど気兼ねなく休めるような言葉がけを工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	何かしら役割を持って生活をしていただいている。負担にならないように気が向かなければ休むことも自由である。自分からやると言い出せず、後ろめたい思いをしている方もあるので、声を掛けてやってもらう場合もある。必ず感謝の言葉をかけるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布は、しまい忘れ等あるので預かっているが希望があれば買い物ができる。何処までできるか把握し対応している。お札で支払う、お釣りを受け取るなどできるところはやってもらう機会を作っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関先の椅子や、畑が自分の居場所という方もいる。所在の確認を行いながら自由に外で過ごしてもらっている。天気の良い日など、自らは出掛けられない方や車椅子の方でも戸外で過ごす機会が持てるよう声を掛けたり、介助を行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	春と秋にバスハイクを計画し実施している。春は家族にも声を掛けて多数参加いただいた。秋は、グループ分けして出かける予定。利用者の意見を聞いて行き先を検討している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援すれば電話をかけられる方もあるので、個々にあった支援をしている。友人から手紙をいただく場合はあるが、やり取りは出来ていない。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも、だれでも訪問できる。時間の制限はしていない。訪問時は、居室や区切った空間のソファで気兼ねなく過ごしてもらえるようにしている。週に何度も訪れる家族もある。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないことを職員は意識してケアにあたっている。「身体拘束ゼロへの手引き」をテキストに勉強会を行い、外部の研修にも参加している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間、職員がひとりになる時間を除き鍵はかけていない。居室の吐き出し窓も日中は鍵を開けている。利用者の負担にならないよう配慮しながら所在の確認は行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一人ひとりの状態に応じ、適時見守り、安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫道具や、ハサミなど注意は必要とするが日常使用するものは目に付くところに置き、見守りで危険がないように注意している。危険な洗剤や薬品、刃物は保管場所を決めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット、アクシデントについては報告書に記入し、原因や対策について検討を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命講習をほとんどの職員が受講し、対応について訓練を行っている。AED設置している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年も、夜間に避難訓練を計画している。併設の特養や、医療機関、地域の方に参加いただいている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	面会時は、状態の報告を行ない、予想されるリスクについて説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルの数値のチェックのみならず、一人ひとりの様子の変化に気付くことが大切と考える。少しの変化でも職員で確認し合って対応している。看護師に相談したり、受診につなげている。家族に速やかに報告するようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局でいただく薬の説明書きをファイルして利用すると共に、医師や薬剤師から説明いただき、専用のノートで申し送っている。薬局には、心配なことや疑問があれば相談に乗ってもらっている(道路を挟んで向かいに薬局がある)。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	乳製品を毎日摂ってもらったり、体操を行って対策している。必要な方にはチェックを行い、個別の対応をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	就寝前には、歯磨きと入れ歯の手入れを必ず行っている。	○	朝と昼については、必要な方には援助を行ない、後は個人にお任せしている。口臭の気になる方もいるので検討し援助していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取状況を観察しながら、過不足無い対応に努めている。食事形態も個人にあったものに調理されている。摂取量が少ない場合は、補食を用いている。献立表は時々栄養士に見てもらい、アドバイスしてもらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがあり、実行している。流行シーズン前にはミーティングで話題にしたり勉強会を行い、注意を喚起している。インフルエンザ予防接種は利用者・職員全員が受けることとしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	清潔に保たれるよう、管理している。食材は、鮮度の良いものを購入するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口には花壇、玄関にはプランターを置いて親しみやすい雰囲気作りに努めている。玄関には鍵をかけておらず、暖かい時期には開け放っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量、窓からの採光に気を配っている。洗面所の洗濯物が見えたり、台所のドアをはずして調理の音やにおいが感じられるなど、生活感を表すようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	もともと区切りの無い大きな空間となっているが、適度に区切り、視線をさえぎる観葉植物を置くなどして共用の空間でも落ち着いて過せるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを持参いただくように家族にはお願いしている。整理タンス、鏡台を持参している方もある。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ホールは窓が少ないので、心がけて換気するようにしている。温度計を設置し、適温が保たれるように調整を行っている。冬は空気の乾燥が風邪の原因にもなるので、加湿器を設置して湿度が保たれるようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて、手すりを追加したり、転倒時の衝撃を和らげるようマットを敷いて対応している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入り口の名札が年々認識されにくくなってきたので、文字を大きくして見やすくした。その他必要などころに表示している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	鉢植えやプランターに花を植えて玄関に置いたり、花壇、畑、洗濯物干し場があり、楽しんで利用してもらっている。くつろいだり、休んだりできるようところどころにベンチを置いている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症という障害を抱えている皆さんですが、のんびりと自由にすごすことのできる環境の中で、自らの力を活かし、支え合い、楽しみ、癒され、安心して生活しています。

- ・一人ひとりの理解を深め、援助しています。
- ・家族とのつながりを大切にし、協力して援助し、楽しく交流しています。
- ・健康状態について、特養の看護師にいつでも相談することができます。医療機関が近隣にあり、通院に便が良く安心感があります。
- ・力を発揮する場面があります。
- ・植物(花、畑)や動物(金魚)とふれあっています。
- ・明るく、開放感があり落ち着くことのできる空間です。
- ・娯楽や、たのしみがあります。
- ・みんなでおいしい食事を作っています。
- ・広報で情報を伝えています。